

# 宝珠山 如意寺だより

春号 No.9

(平成28年4月1日発行)

※バックナンバーは、HPで閲覧可能です。

## 如意寺の歴史①

如意寺は、天平年間(奈良時代。今から約1300年前)に行基菩薩が開基した真言宗の古刹です。昨年、高野山は開創1200年を迎え盛大な行事が毎日執り行われました。



旧境内

これは、弘法大師空海が高野山を開いた年(816年)を元としています。因みに、日本で一番古いお寺は奈良の元興寺、飛鳥寺、法隆寺など約1400年前です。行基菩薩が、久美浜に来られた時、

くみのはま(如意寺~久美浜小学校辺りの海岸)で海を眺めていると、海上から光が現れて山に登り、また海に没したのを見て不思議に思い、海士に網を入れさせたところ「過去七仏」の如意宝珠を得たのでこれを祀り如意寺を興した、と言われています。(つづく)



高野山開創1200年法会(高野山大伽藍にて)

この間に好天の初詣もありましたゆえ、多くの方々よりご芳志をいただきました。誠にありがとうございます。工事は、5~7月の間に約一ヶ月をかけて行いう予定であります。

## 仁王門瓦御寄進のご報告と御礼



**柴灯大護摩供**  
四月一日(金)

■午前十時半  
柴灯護摩 厳修  
・家内安全・厄災消除  
・商売繁昌 ほか

■午後一時四十分  
花説法(本堂)  
■午後二時四十五分  
もちまき(本堂前)  
不動尊大祭は、毎年四月一日です。

## 丹後情報

①京都丹後鉄道は、4月1日(金)から豊岡駅と天橋立駅の区間で、食堂列車「丹後くろまつ号」を「FOOD EXPERIENCE」をコンセプトにリニューアル。地元のグルメ提供を通じて、沿線地域の魅力を発信する新サービス「丹後のこだわり味わいコース」を開始します。(下線部でご検索ください。予約サイトがあります。)

②丹後王国「食のみやこ」(検索)  
~いろいろあって一日楽しめます。

西日本最大級の道の駅。車が便利。車でない場合は、京都丹後鉄道で網の駅下車。バスがあります。本数が少ないので事前に調べた方がいいです。(京丹後市弥栄町)

## 4月の動画



ご家族のスマホでご覧ください。



## 春~初夏の花暦

6月			5月			4月		
下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬
紫陽花	沙羅	二人静	二輪草	宝鐸草	翁草	みつばつじ	碗草	狸々袴
山紫陽花	山法師	浜梨	花筏	雪餅草	山吹	丹頂草	馬酔木	日向水木
花菖蒲	山躑躅	西洋石楠花	白糸草	九輪草	石楠花	片栗	木蓮	桜
京鹿子	岩絡み	薺環	山椒薔薇	海老根	一人静	鯛釣草		
螢袋	笹百合	山椒薔薇	山椒薔薇	鳴子百合	山芍薬			
丘虎尾	岩煙草	匂い蠟梅						

## “ありのまま”に生きるって？ (一)

「自我の確立」ということばがありますが、仏教では「自我」はないと考えます。ちょっとびっくりしませんか。今まで、「自分をしっかり持て」とか、「自分らしく」と言われて育ってきたのですから。確かに一人ひとりを見るとさまざまな特徴や個性があります。しかし、それはその人にだけある特別な性質ではなく、誰にでもある傾向がその状況によって、より強く現れたり現れなかったりするだけです。仏教の「無我」はここから来ています。



人間だけでなく、あらゆるものは「縁」によって生じます。ものも自然現象もさまざま

な偶然の組み合わせによって産まれたり消えたりします。「心」も同じです。いつもきまった形があるわけではなく、その場に応じていくらでも変化できます。「私はこういうタイプだから、今回は何もできません。」なんて言うておられないわけです。それにこの世の中はお互いさまで生かされあっているのですから、何をするにしても周りの人の立場を考え、常に感謝の気持ち、謙虚な姿勢で対処することが望まれます。信念を持つことは大切ですが、行き過ぎると「こだわり(固執)」になりかねません。



「ありのままに生きる」という言葉もあります。この現代社会において、文字通り「ありのまま」に生きることはむずかしいと言わざるをえません。人間の性格や特徴は一つだけではありません。穏やかな性格だが時には激しく怒ることもある。家でゆっくりしているのが好きだがたまには登山に行きたくなる…。一人の中には、多くの性格や好みが混在していますが、その中で代表的な性格がその人らしいと云われているにすぎないのです。したがって、もっとも無理のない自分を表に出して生きることが、「ありのままに、自分らしく生きる」ということになるのでしょうか。「自分探し」は言葉の綾であり、いくら探してもそのようなものはありません。あるとすれば、それは今後の人生経験の中で絞り込まれてくるものでしょう。(瞑想の果てに宗教的な“真実の自己”(悟り)に到達することももちろんありますが、今は少し遠い話として脇に置きます。)

当面は、その都度新しい自分を立ち上げて、その場に最もふさわしい対処法を選び取っていける生き方こそが人間らしい柔軟さだと思います。与えられた環境や立場の中で畏れずに堂々とベストを尽くすことこそ、「ありのまま」の強い生き方であり、同時に「肩の力を抜いた自分らしく自由な生き方」だと言えないでしょうか。



※ 次号で「ありのままに生きる」(二)をお送りします。

## ことは

- ◆ 面子を立てることばかり考えていると、本当の人生がわからなくなる。
- ◆ 仕事を進めるよりも、人を愛すること。そうすれば仕事も進む。
- ◆ な～に、自分の思ったとおりに生きればいいんだ。

## 庭の改修、第二期工事に着手！

この数十年の間に成長しすぎた境内の樹木を少し伐採します。また、「つつじの花のトンネル」の散策道を少し広げて歩きやすくします。本堂裏手の山野草の庭も少し改修します。またご覧ください。

## 参拝者の声

- ・「境内に一歩足を踏み入れた瞬間、「仏さま」の力を感じます。」(60代女性)
- ・「ここは何か違います。初めての体験です。(日本語訳) (イギリス人男性)

## 花説法を聞かれた方の声

- ・「ニリンソウって怖いお花なんですね。(大笑)」(70代女性)
- ・「いい所に連れてきてもらった。いい話だった。」(ツアーの60代男性)
- ・「すべては変化するからこそ悩みも病気も治るんですよ。」(50代女性)